

## 【はじめに】

コロナ禍3年目の2022年度は、第7・8波となったが、保育現場は経験値を積みつつ、どのような状況にあるのか、感染状況やワクチン接種の実態、マスクの装着や子どもや職員のメンタル面の状況、行事に対する意識等にもふれる。

また、今年度は保育施設のみならず、保護者の意識を明らかにするために、釧路と札幌の6施設にご協力いただき、調査を実施した。

さらに、2022年は送迎バス等に取り残されて熱中症で死亡するといった保育に関わる子どもの痛ましい事故があり、あらためて保育における人数確認等についても調査を行った。

## 【目的】

1. コロナ禍での保育3年目の実態
2. コロナ禍3年目の保護者の意識
3. 保育における人数確認の状況

## 【方法・時期】

調査方法：質問紙調査（Googleフォーム）

調査対象：道内の保育施設280件、釧路と札幌の6施設の保護者428件

調査時期：2023年3月16日～4月14日

回収数・回収率：保育施設135件・48.2%、保護者122件・28.5%

## 【結果】

1. ワクチン接種と感染状況、マスク装着
  - (1) 職員のワクチン接種は、大半が接種済みは53.3%にとどまる
  - (2) 接種しない理由：副反応67.4%、効果が感じられない24.4%、なんとなく28.1%、面倒20.7%
  - (3) 職員の感染で園児の受け入れ制限をした園は44.5%
  - (4) 1人が感染すると52.6%が2～3人に感染、36.9%は他に感染なし、10.5%は5人以上に感染
  - (5) マスクの正しい装着：5歳70.4%、4歳50.0%、3歳22.8%がほぼできるが、2歳は難しい
  - (6) マスク装着の推奨は40.8%、家庭に任せる42.2%、状況に応じて推奨17.0%
  - (7) マスク装着なしでの保育に不安な保育士は59.3%
2. 行事の方法、子ども・職員のメンタル
  - (1) 行事：従来通り実施のための条件や状況
    - ①感染者のみの自宅療養となるのが64.4%
    - ②マスク着用義務やソーシャルディスタンスがなくなることが約44%
    - ③コロナ禍での実施方法が良かったのでそのまま続けるが31.9%
  - (2) メンタル：子ども
    - ①変化なし65.2%
    - ②休み明けの登園を渋る33.3%
    - ③不機嫌・不穏13.3%
    - ④よく泣くようになった8.1%職員
    - ①変化なし80.7%
    - ②退職例8.9%
    - ③短期休養8.1%
    - ④長期休養5.2%
3. 保護者の意識
  - (1) 71.3%の家庭で感染を経験
  - (2) コロナ罹患時の心配：①家族に広がらないか90.9% ②重症化87.7% ③自宅待機81.1%
  - (3) コロナの診察について：発熱外来が受診できないのが大変59.8%
  - (4) ワクチンがあれば受けさせたいか？

全 体	①どちらともいえない47.6%	②受けさせない38.5%	③受けさせる13.9%
罹患あり（87件）	①どちらともいえない44.8%	②受けさせない43.7%	③受けさせる11.5%
罹患なし（35件）	①どちらともいえない54.3%	②受けさせない25.7%	③受けさせる20.0%
4. 保育における出欠・人数確認
  - (1) 出欠確認は電話が96.3%、メールやLINE等での実施も25.2%で複数実施

- (2) 欠席連絡がない場合は園から電話連絡が97.0%
- (3) 電子化（機械化）や人工知能（AI）などの導入22.2%、検討中27.4%

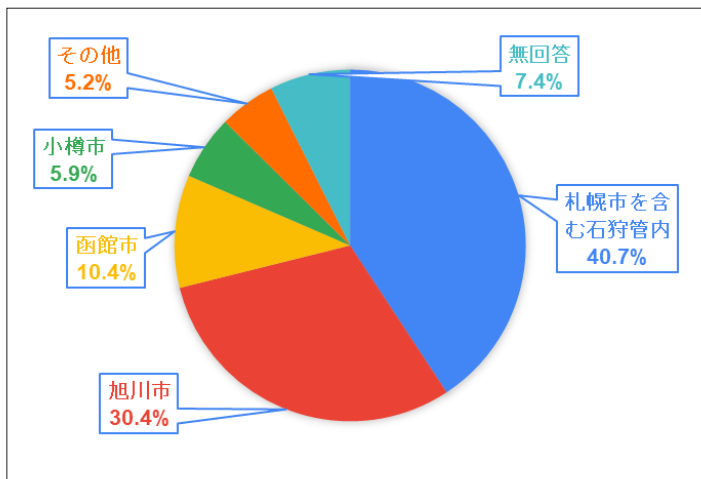
【考察】

1. コロナ禍は行事実施について制約を受ける日々であったが、長年変わらずに実施していた方法の見直しの機会となり、結果として保育の見直しとなった点が評価される。
2. コロナはインフルエンザ等の感染症と同じ位置付けになったが、第9波のはじまりともいわれる今日、日常の保育に戻った安心感とともに、この3年間の経験をいかした日常的なリスク管理を構築していくことが求められる。国、自治体、園医と保育施設でともに考えていく必要があるでしょう。
3. 保護者の調査からは、コロナ経験がワクチン接種に対して消極的に働いている傾向が明らかになった。ワクチンの安全性の確立と罹患の危険性の周知が今後の課題と考えられる。
4. 保育の出席確認については、現在は電話が中心で、3割弱がメールやLINE等の複数の方法で実施しており、今後はアプリ等での連絡や出欠管理が増えることが予想される。アプリ等のメリットは送りたいときに情報を送れる、記録に残ること、デメリットは双方向ではなく、即時性がない点である。こうしたメリット・デメリットを踏まえ、複数の方法でリスク管理をしていくことが主流になると考えられる。複数の方法を取り入れることの煩雑さや本末転倒にも注意が必要である。

【調査結果（保育施設）】

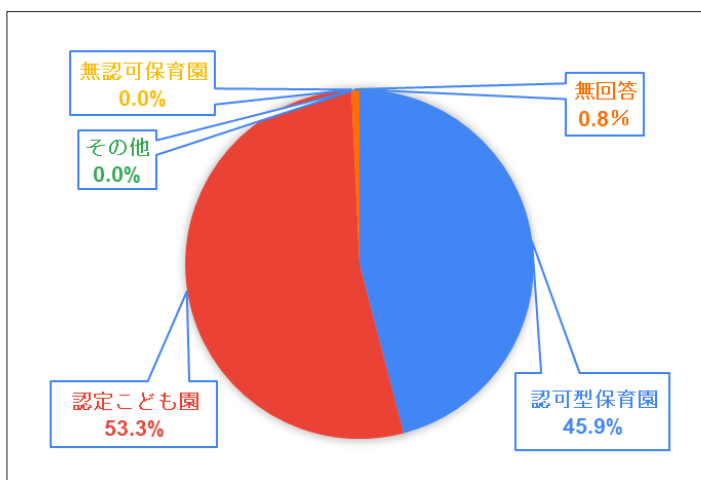
(1) 回答施設の概要

1) 所在地



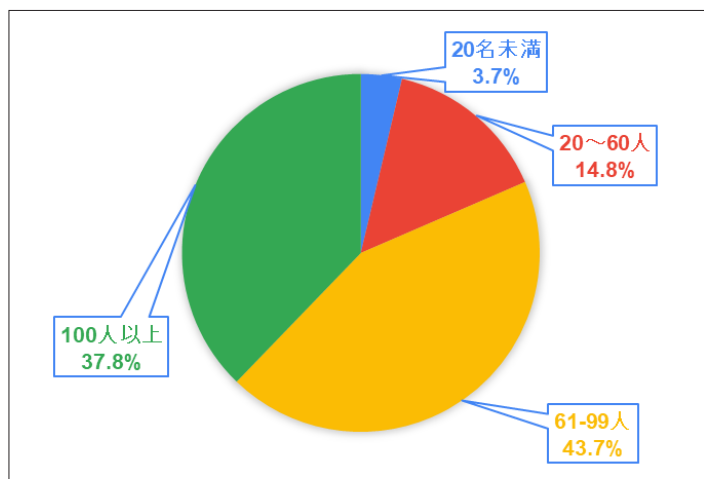
カテゴリー	回答数	%
札幌市を含む石狩管内	55	40.7%
旭川市	41	30.4%
函館市	14	10.4%
小樽市	8	5.9%
その他	7	5.2%
無回答	10	7.4%
合計	135	100.0%

2) 施設の種類の



カテゴリー	回答数	%
認可型保育園	62	45.9%
認定こども園	72	53.3%
無認可保育園	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	0.8%
合計	135	100.0%

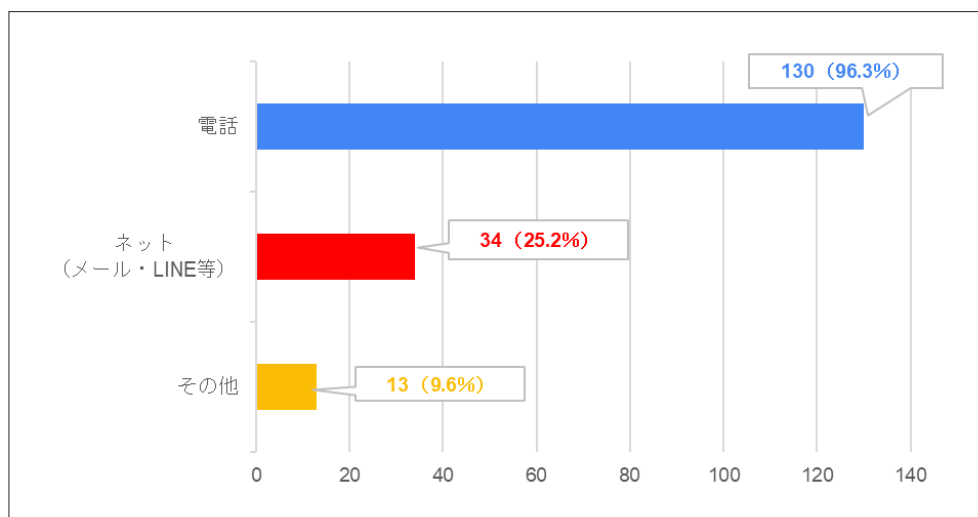
### 3) 施設の定員数



カテゴリー	回答数	%
20名未満	5	3.7%
20～60人	20	14.8%
61-99人	59	43.7%
100人以上	51	37.8%
合計	135	100.0%

### (2) 保育における人数確認の状況等

#### 1) 朝の欠席確認の方法 [複数回答]

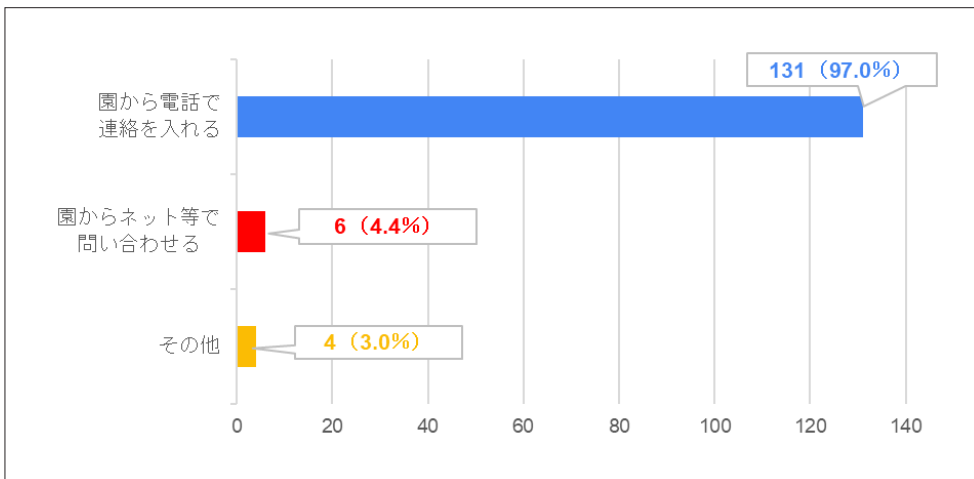


カテゴリー	回答数	%
電話	130	96.3%
ネット (メール・LINE等)	34	25.2%
その他	13	9.6%

#### 《その他の内訳》

アプリを使用、園児登降園システム、玄関番の職員が欠席連絡を各クラスの職員へ伝達、対面で確認し登園時間を過ぎても登園していない場合は電話で確認、保護者からのシフトの提出により事前に出欠を確認、前日の降園時の保護者からの伝達 など

## 2) 朝の欠席確認の方法 [複数回答]

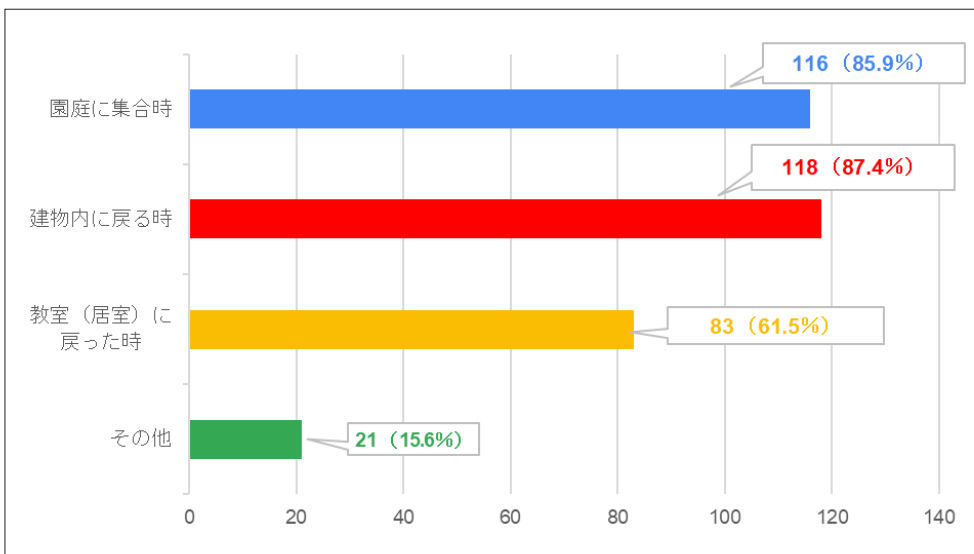


カテゴリー	回答数	%
園から電話で連絡を入れる	131	97.0%
園からネット等で問い合わせる	6	4.4%
その他	4	3.0%

### 《その他の内訳》

アプリを使用、連絡なしで欠席扱い、伝言に残されていないか確認、登園する予定の子が来ていない場合は電話確認し、無断欠席が常習的な子の場合は欠席扱いにして翌日電話確認

## 3) 園庭での外遊びにおける人数確認 [複数回答]

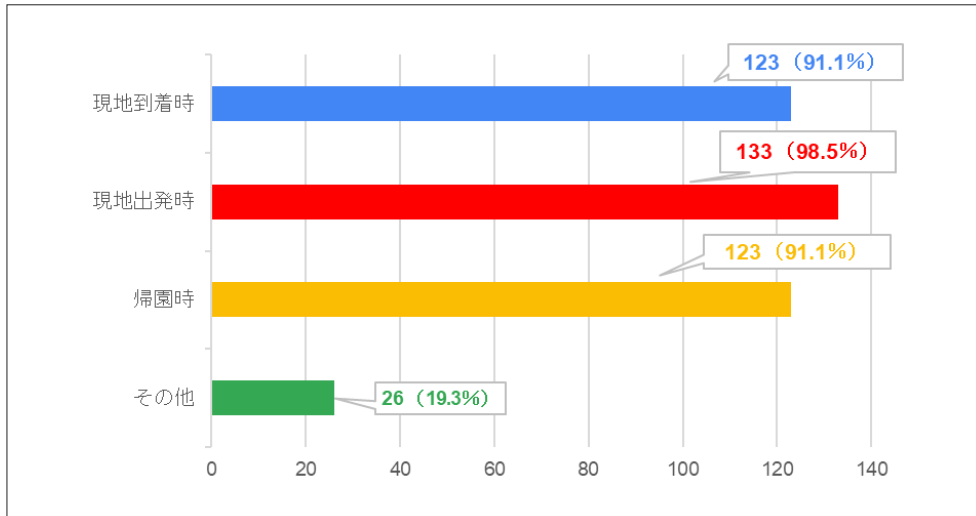


カテゴリー	回答数	%
園庭に集合時	116	85.9%
建物内に戻る時	118	87.4%
教室(居室)に戻った時	83	61.5%
その他	21	15.6%

《その他の内訳》

戸外に出る時および戻る時、30分毎、遊んでいる時、順次子どもが建物内に戻る際はその都度無線連絡、活動中に複数回確認、園外行事でバスに乗った際や降りた際に数名で確認、節目節目で人数確認を職員間で実施など

4) 園外への散歩における人数確認 [複数回答]

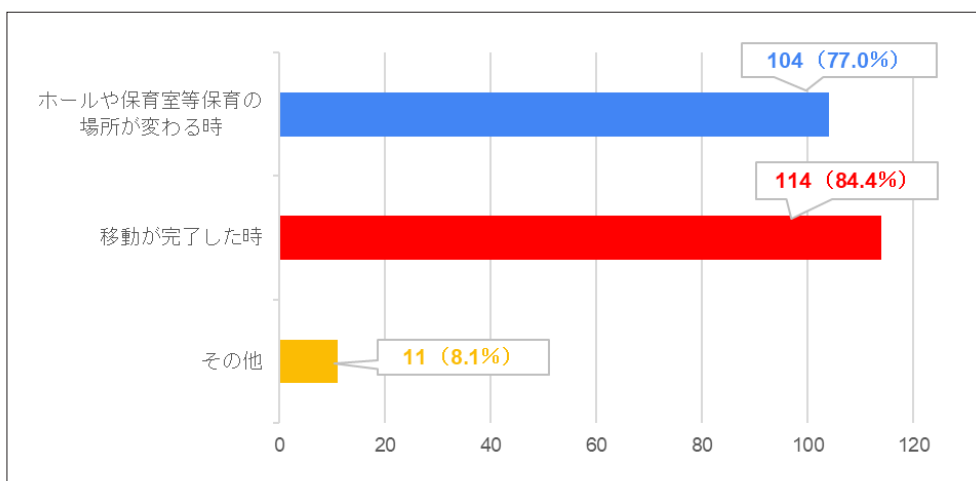


カテゴリー	回答数	%
現地到着時	123	91.1%
現地出発時	133	98.5%
帰園時	123	91.1%
その他	26	19.3%

《その他の内訳》

園出発前、園出発時、現地で遊んでいる時、場所を移動した時、移動中に数回、30分毎、状況に応じて自由に遊んでいる際も職員間で人数や子どもの状態を把握しチェック、バス乗車および降車時、活動中に短い間隔で確認 など

5) 園内保育中における人数確認 [複数回答]

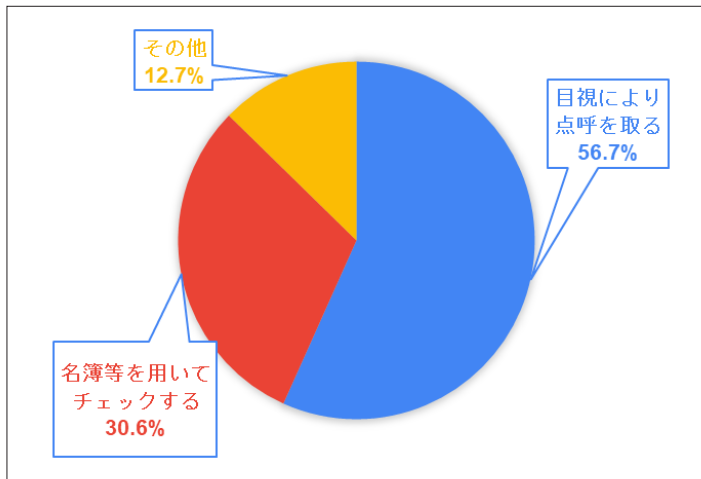


カテゴリー	回答数	%
ホールや保育室等保育の場所が変わる時	104	77.0%
移動が完了した時	114	84.4%
その他	11	8.1%

《その他の内訳》

トイレへの移動の際やトイレから部屋に戻った時、移動前、30分毎、午睡時、遊んでいる時、給食の時間、登園時及び降園時に都度、複数で子どもを把握している为先に行く人・遅い人で確認、状況に応じて自由に遊んでいる際も職員間で人数や子どもの状態を把握してチェック など

6) 人数確認の方法

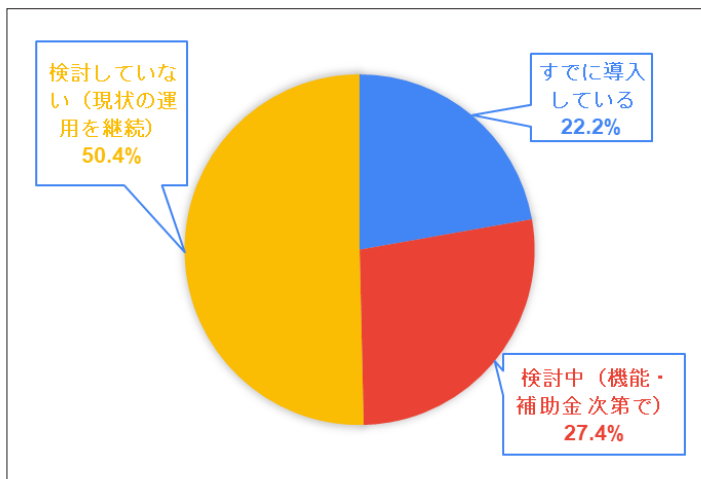


カテゴリー	回答数	%
目視により点呼を取る	76	56.7%
名簿等を用いてチェックする	41	30.6%
その他	17	12.7%
合計	134	100.0%

《その他の内訳》

人数を数える、靴箱の靴確認、友達や保育士と手つなぎ確認、登園システムで確認、目視と登園システム、頭を触って人数確認、声に出して点呼確認、名前を呼んで返事をしてもらう、複数担任でそれぞれ確認、乳児は目視で確認し幼児は点呼名簿を使用、行き先によって確認方法が異なる など

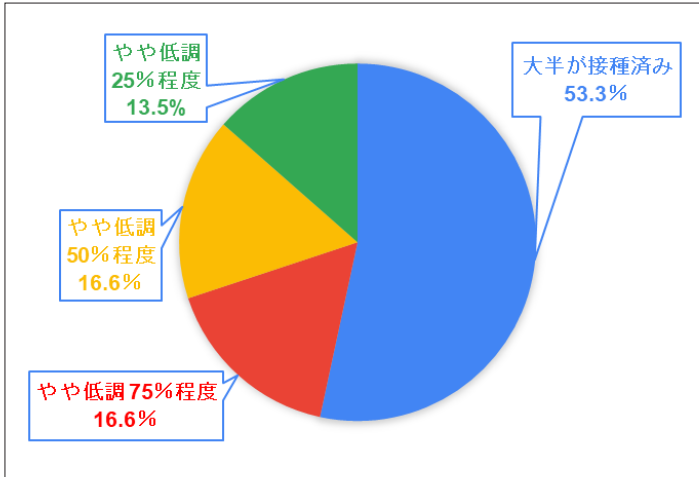
7) 電子化（機械化）や人工知能（AI）などの導入検討



カテゴリー	回答数	%
すでに導入している	30	22.2%
検討中（機能・補助金次第で）	37	27.4%
検討していない（現状の運用を継続）	68	50.4%
合計	135	100.0%

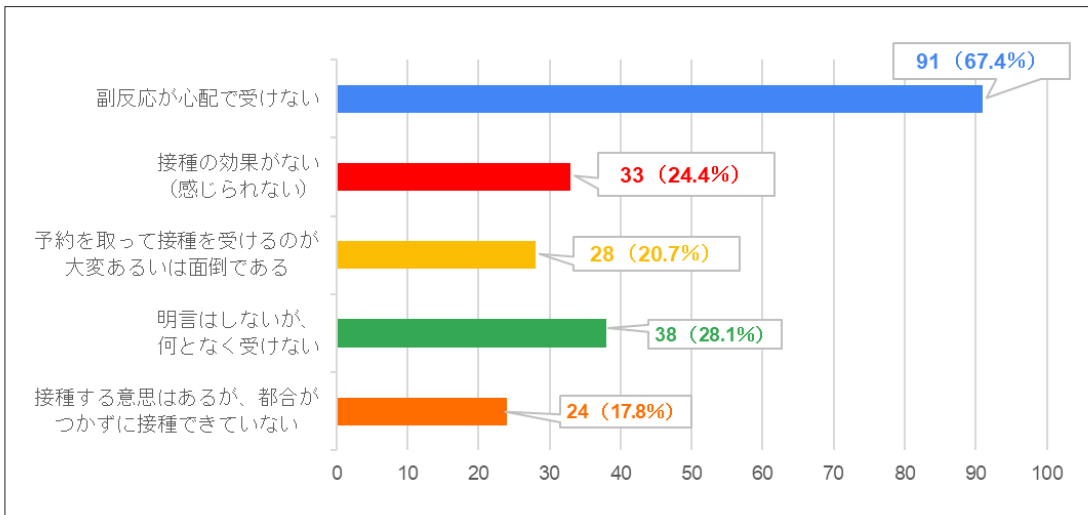
(3) コロナ禍での保育3年目の実態等

1) 職員の新型コロナウイルス感染症のワクチン接種状況 (オミクロン株対応)



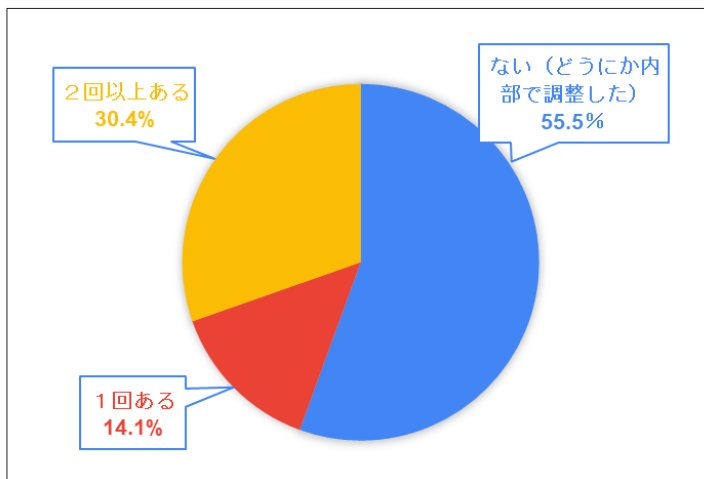
カテゴリー	回答数	%
大半が接種済み	71	53.3%
やや低調 75%程度	22	16.6%
やや低調 50%程度	22	16.6%
やや低調 25%程度	18	13.5%
合計	133	100.0%

2) 職員が新型コロナウイルス感染症のワクチンを中断もしくは接種しなかった理由 [複数回答]



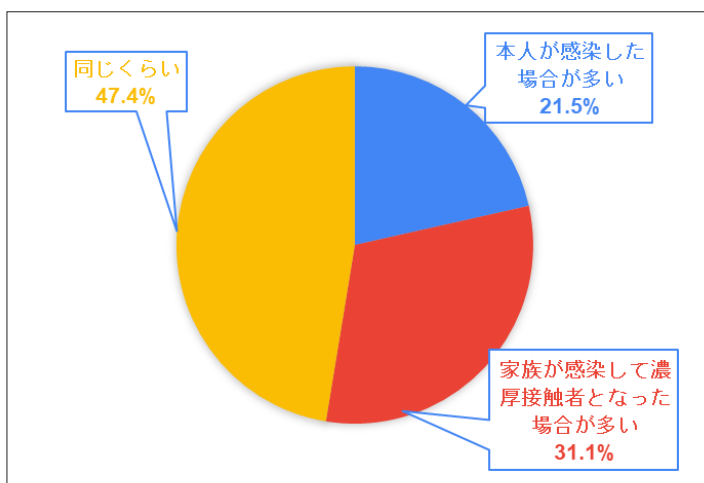
カテゴリー	回答数	%
副反応が心配で受けない	91	67.4%
接種の効果がない (感じられない)	33	24.4%
予約を取って接種を受けるのが大変あるいは面倒である	28	20.7%
明言はしないが、何となく受けない	38	28.1%
接種する意思はあるが、都合がつかずに接種できていない	24	17.8%

3) 職員の感染等による園児の受け入れ制限の実施（クラス閉鎖や時短保育の実施等）



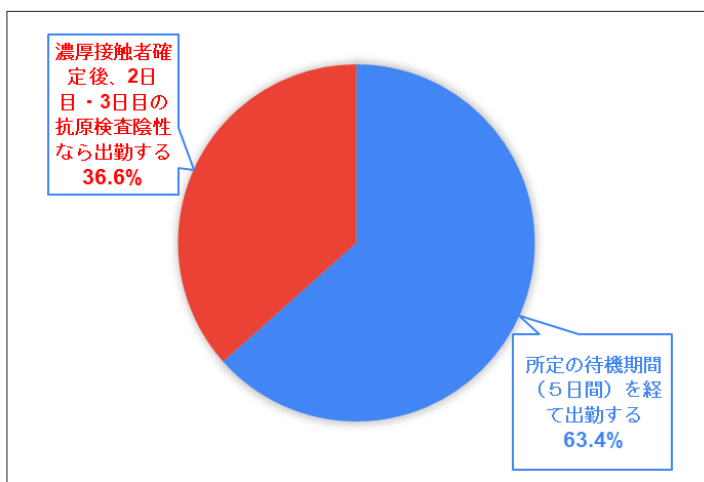
カテゴリー	回答数	%
ない（どうにか内部で調整した）	75	55.5%
1回ある	19	14.1%
2回以上ある	41	30.4%
合計	135	100.0%

4) コロナに関連して職員が休む場合の理由



カテゴリー	回答数	%
本人が感染したことが多い	29	21.5%
家族が感染して濃厚接触者となったことが多い	42	31.1%
同じくらい	64	47.4%
合計	135	100.0%

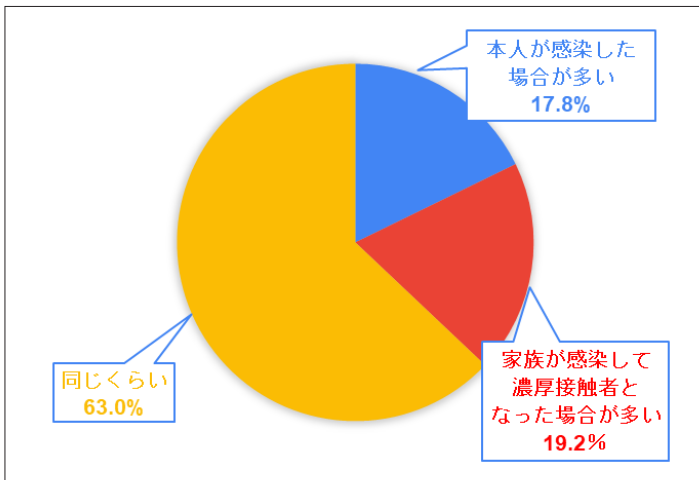
5) コロナに関連して職員が休む場合の理由



カテゴリー	回答数	%
所定の待機期間（5日間）を経て出勤する	85	63.4%
濃厚接触者確定後、2日目・3日目の抗原検査陰性なら出勤する	49	36.6%
合計	134	100.0%

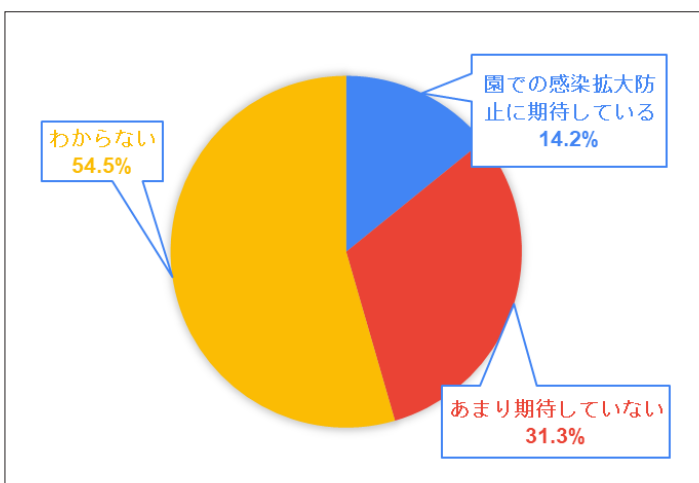


6) コロナに関連して園児が休む場合の理由



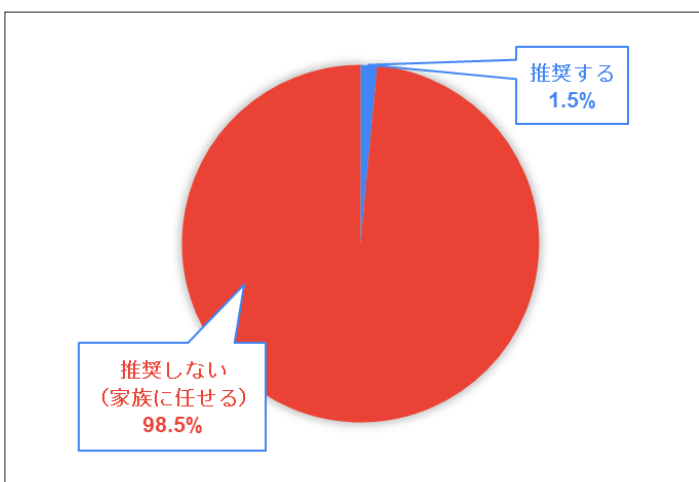
カテゴリー	回答数	%
本人が感染した場合が多い	24	17.8%
家族が感染して濃厚接触者となった場合が多い	26	19.2%
同じくらい	85	63.0%
合計	135	100.0%

7) 2022年11月から開始された乳幼児用のワクチンへの期待



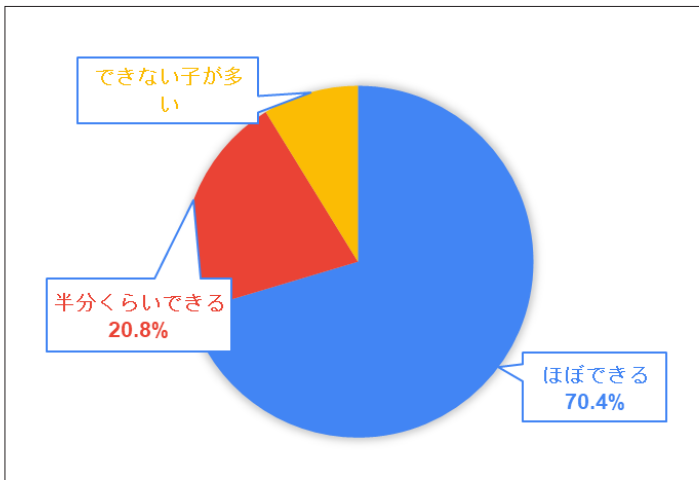
カテゴリー	回答数	%
園での感染拡大防止に期待している	19	14.2%
あまり期待していない	42	31.3%
わからない	73	54.5%
合計	134	100.0%

8) 園における乳幼児用のコロナワクチン接種の推奨 (2023年2月1日時点)



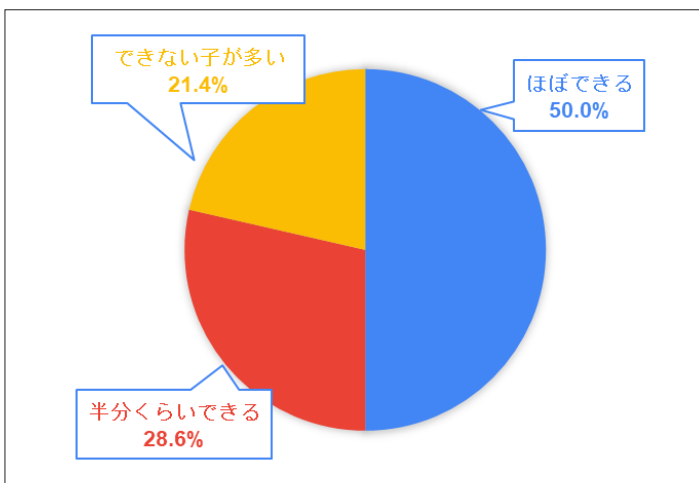
カテゴリー	回答数	%
推奨する	2	1.5%
推奨しない (家族に任せる)	133	98.5%
合計	135	100.0%

9) マスクの正しい装着（5歳児）



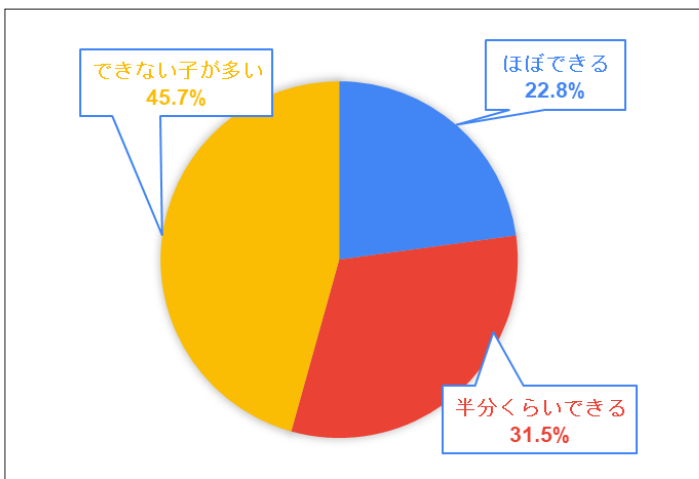
カテゴリー	回答数	%
ほぼできる	88	70.4%
半分くらいできる	26	20.8%
できない子が多い	11	8.8%
合計	125	100.0%

10) マスクの正しい装着（4歳児）



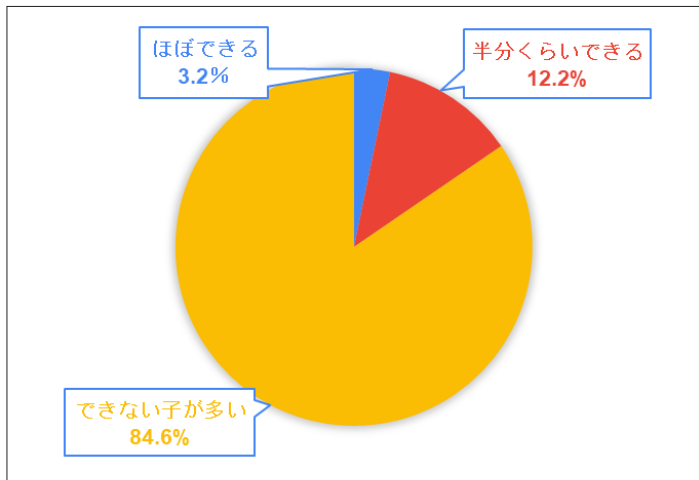
カテゴリー	回答数	%
ほぼできる	63	50.0%
半分くらいできる	36	28.6%
できない子が多い	27	21.4%
合計	126	100.0%

11) マスクの正しい装着（3歳児）



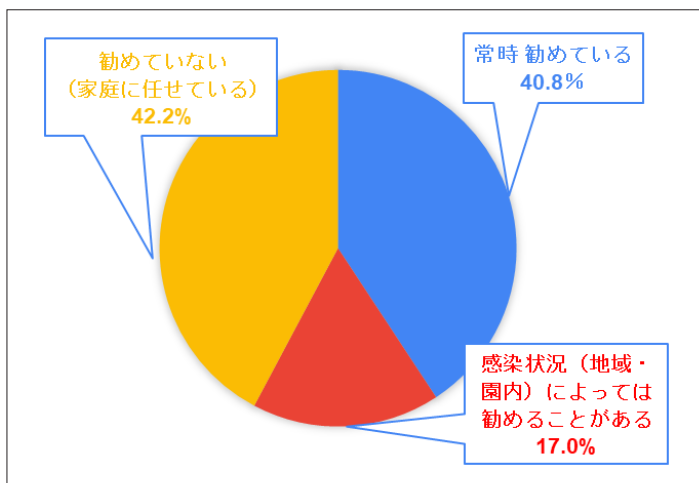
カテゴリー	回答数	%
ほぼできる	29	22.8%
半分くらいできる	40	31.5%
できない子が多い	58	45.7%
合計	127	100.0%

12) マスクの正しい装着（2歳児）



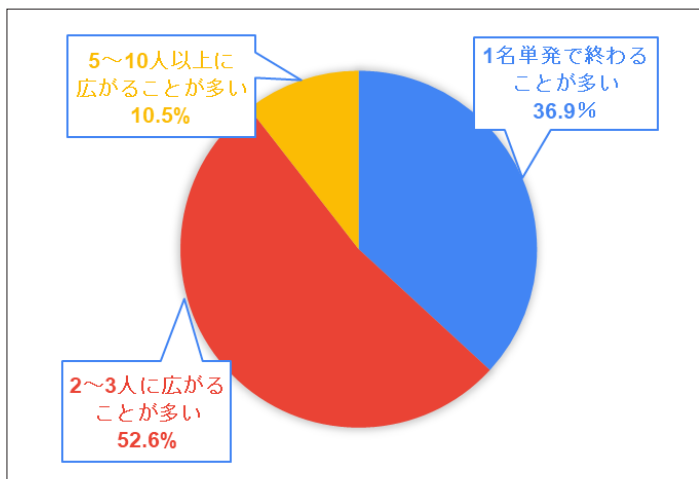
カテゴリー	回答数	%
ほぼできる	4	3.2%
半分くらいできる	15	12.2%
できない子が多い	104	84.6%
合計	123	100.0%

13) 園としてのマスク着用の推奨（2023年2月1日時点）



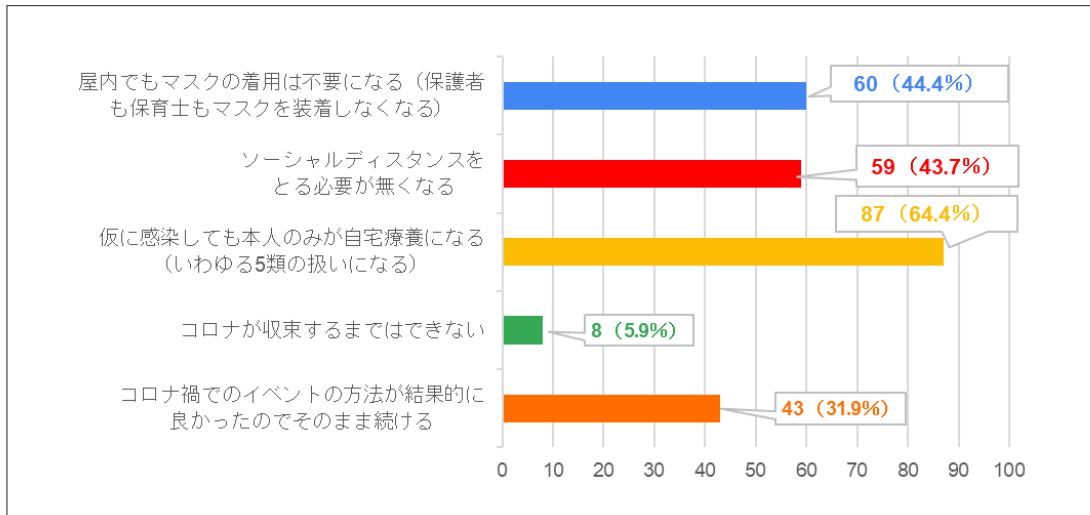
カテゴリー	回答数	%
常時 勧めている	55	40.8%
感染状況（地域・園内） によっては 勧めることがある	23	17.0%
勧めていない （家庭に任せている）	57	42.2%
合計	135	100.0%

14) 園児及び職員における新型コロナウイルス陽性者の発生状況



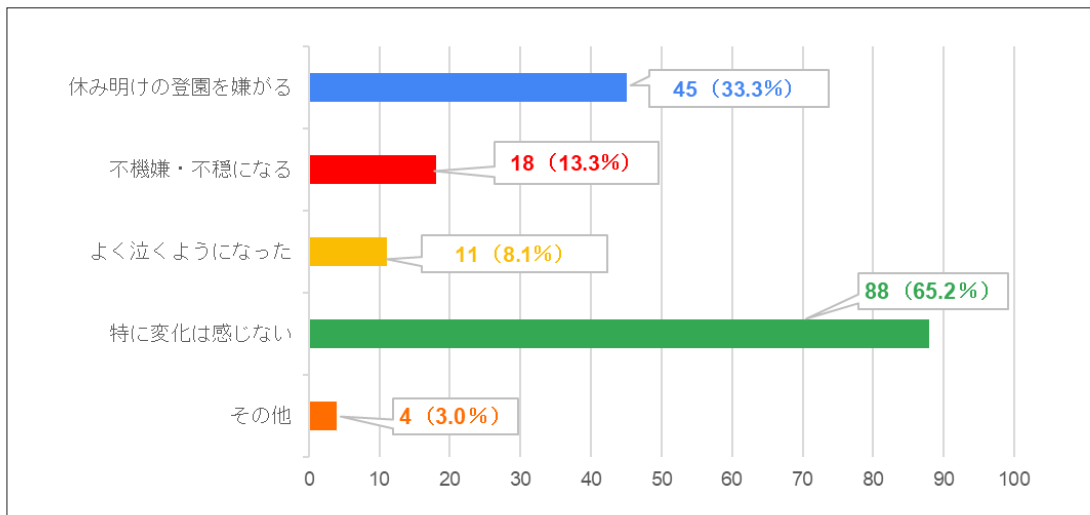
カテゴリー	回答数	%
1名単発で 終わることが多い	49	36.9%
2～3人に 広がる ことが多い	70	52.6%
5～10人以上に 広がる ことが多い	14	10.5%
合計	133	100.0%

15) 園児や家族が参加するイベントを従来通り開催するための条件や状況等 [複数回答]



カテゴリー	回答数	%
屋内でもマスクの着用は不要になる (保護者も保育士もマスクを装着しなくなる)	60	44.4%
ソーシャルディスタンスをとる必要が無くなる	59	43.7%
仮に感染しても本人のみが自宅療養になる (いわゆる5類の扱いになる)	87	64.4%
コロナが収束するまではできない	8	5.9%
コロナ禍でのイベントの方法が結果的に良かったのでそのまま続ける	43	31.9%

16) コロナ禍における乳幼児の変化等 [複数回答]

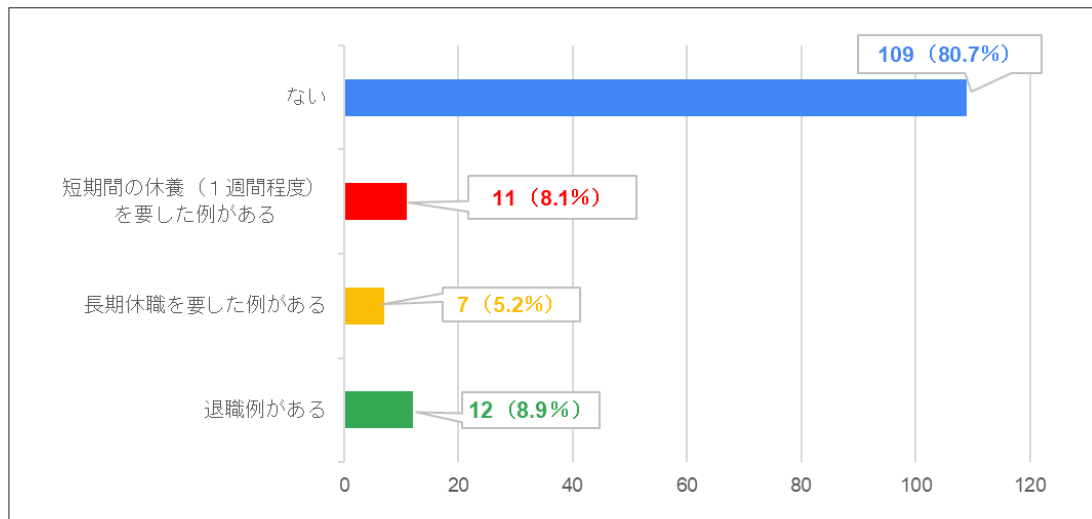


カテゴリー	回答数	%
休み明けの登園を嫌がる	45	33.3%
不機嫌・不穏になる	18	13.3%
よく泣くようになった	11	8.1%
特に変化は感じない	88	65.2%
その他	4	3.0%

《その他の内訳》

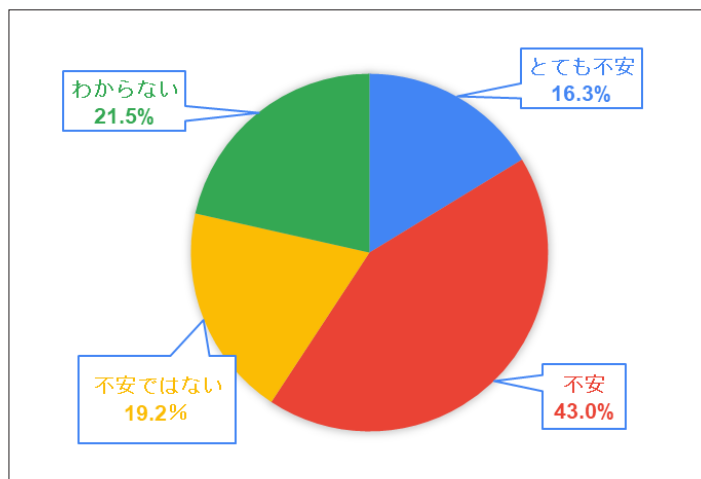
運動不足による能力の低下、登園してもゴロゴロしていて活気がない様子があった、散歩等の機会が減って運動能力の低下が感じられる、家庭でも活動量が減って体力や社会性が低下している様に感じる

17) 新型コロナウイルス感染症流行後の2020年以降、職員が体調不良やストレス等による長期休職や退職した例 [複数回答]



カテゴリー	回答数	%
ない	109	80.7%
短期間の休養（1週間程度）を要した例がある	11	8.1%
長期休職を要した例がある	7	5.2%
退職例がある	12	8.9%

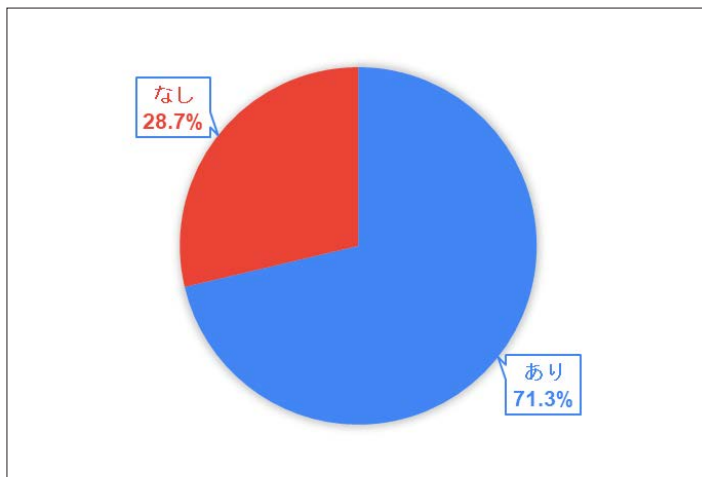
18) 保育士がマスクを装着しないで保育する事への不安



カテゴリー	回答数	%
とても不安	22	16.3%
不安	58	43.0%
不安ではない	26	19.2%
わからない	29	21.5%
合計	135	100.0%

【調査結果（保護者）】

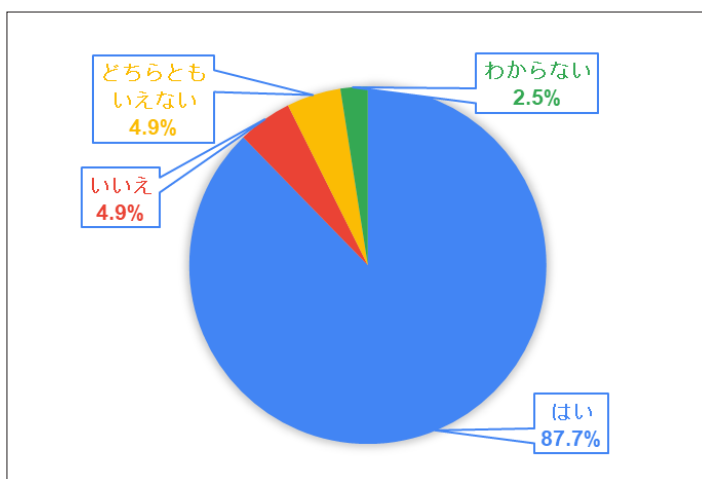
(1) 家族もしくは子どもの感染経験（2020年～2022年）



カテゴリー	回答数	%
あり	87	71.3%
なし	35	28.7%
合計	122	100.0%

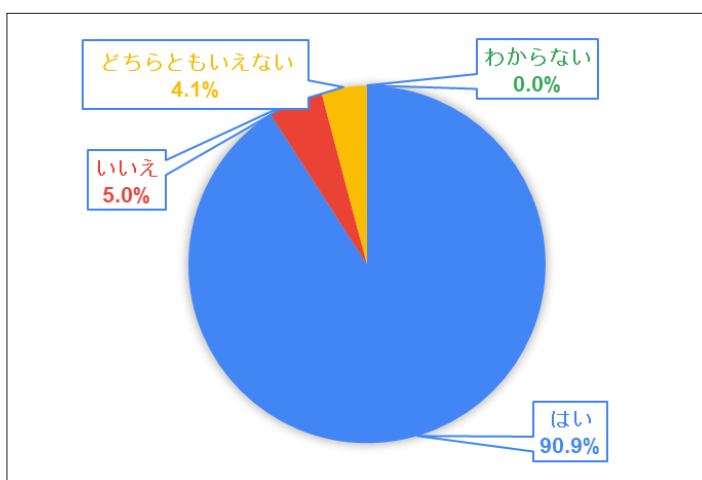
(2) 新型コロナウイルス感染症罹患時の心配

1) 重症化



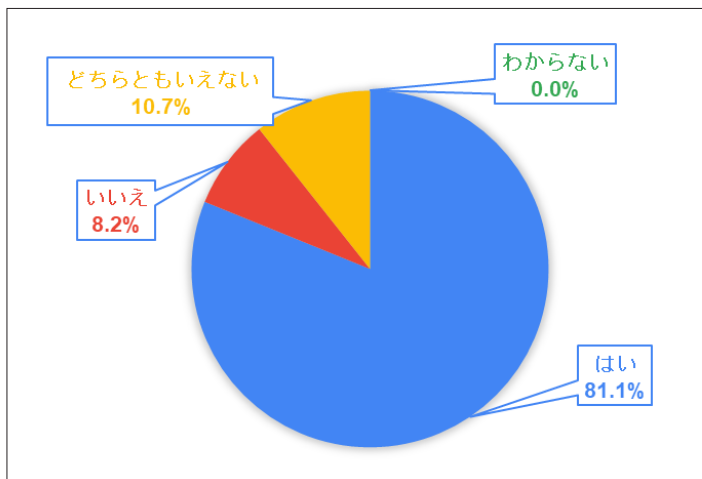
カテゴリー	回答数	%
はい	107	87.7%
いいえ	6	4.9%
どちらともいえない	6	4.9%
わからない	3	2.5%
合計	122	100.0%

2) 感染していない家族への感染



カテゴリー	回答数	%
はい	110	90.9%
いいえ	6	5.0%
どちらともいえない	5	4.1%
わからない	0	0.0%
合計	121	100.0%

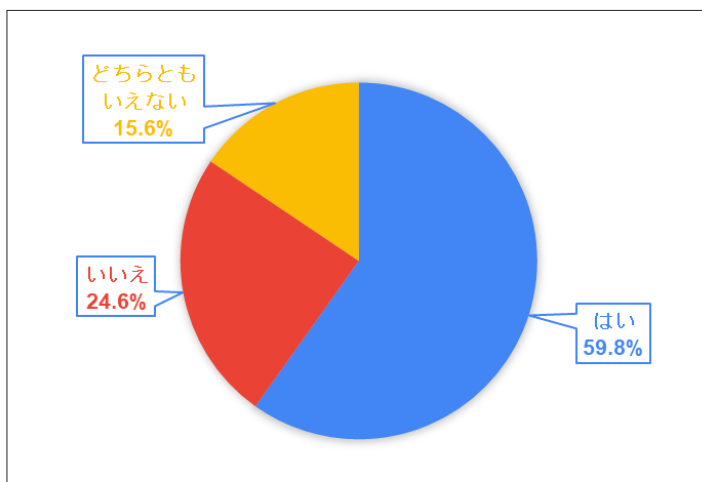
3) 濃厚接触者となった家族が数日間自宅待機になることの負担



カテゴリー	回答数	%
はい	99	81.1%
いいえ	10	8.2%
どちらともいえない	13	10.7%
わからない	0	0.0%
合計	122	100.0%

(3) 新型コロナウイルス感染症の診療の状況

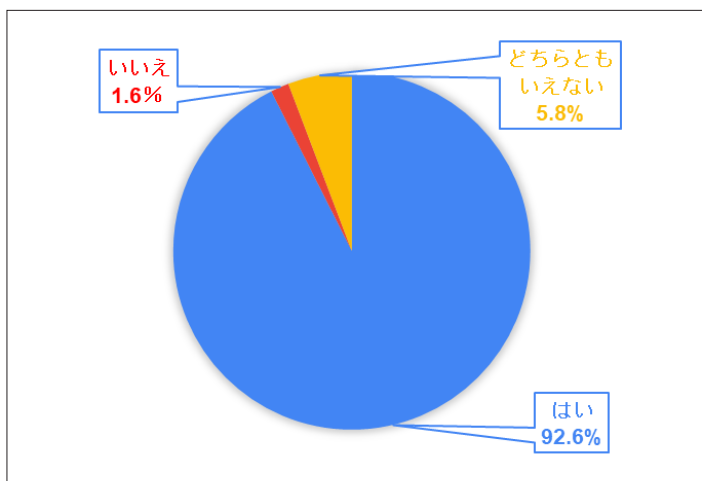
1) 発熱外来をなかなか受診できないのが大変



カテゴリー	回答数	%
はい	73	59.8%
いいえ	30	24.6%
どちらともいえない	19	15.6%
合計	122	100.0%

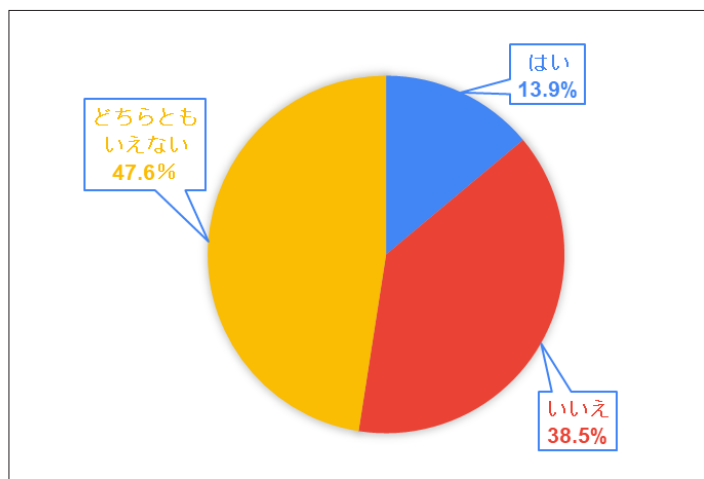
(4) 新型コロナウイルス感染症の予防

1) 新型コロナウイルス感染症に効く薬が早くできれば良い



カテゴリー	回答数	%
はい	112	92.6%
いいえ	2	1.6%
どちらともいえない	7	5.8%
合計	121	100.0%

## 2) ワクチンがあれば受けさせたい



カテゴリー	回答数	%
はい	17	13.9%
いいえ	47	38.5%
どちらともいえない	58	47.6%
合計	122	100.0%